

林建設株式会社

2024年度環境経営レポート

対象期間
(2024年4月1日～2025年3月31日)



作成日：2025年4月30日

目 次

	頁
1.取組の対象組織	1
2.環境経営方針	2
3.環境経営システム組織図及び役割・責任・権限表及び わが社が取組むSDGs	3
4.環境経営目標と実績	
4-1.環境経営目標と実績-本社	4
4-2.環境経営目標と実績-現場	5
4-3.環境経営目標と実績-ANNEX Bldg.	6
5.環境経営目標	
5-1.環境経営目標-本社	7
5-2.環境経営目標-現場	8
5-3.環境経営目標-ANNEX Bldg.	9
6.環境経営計画・環境活動評価及び見直し	
6-1.環境経営計画・環境活動評価及び見直し-本社	10
6-2.環境経営計画・環境活動評価及び見直し-現場	11
6-3.環境経営計画・環境活動評価及び見直し -ANNEX Bldg.	12
6-4.環境配慮の促進として取組んだ NETIS(新技術情報提供システム)	13
7.環境関連法規の遵守状況、違反、訴訟等の有無	14
8.代表者による全体の評価と見直し・指示	15

1.取組の対象組織

□会社概要

【名称及び代表者】

林建設株式会社

代表取締役 林 茂

【所在地】

- 本社 富山県富山市二〇町2丁目6番12 (■E A 2 1の対象事業所)
- ANNEX Bldg. 富山県富山市二〇町2丁目9番地6
- 関東支店 埼玉県朝霞市本町1丁目34番5号
- 東京事業所 東京都港区芝5丁目13番10号 プラザ芝ビル602

【事業内容】

総合建設業 建築工事の設計・施工

【事業規模】

設立 平成20年11月27日
資本金 5000万円
社員数 40名
売上高 24億円 (令和6年10月期)

【事業年度】 11月から翌年10月

□認証・登録の対象組織

【登録事業者名】

林建設株式会社

【対象事業所】

本社 富山県富山市二〇町2丁目6番12
ANNEX Bldg. 富山県富山市二〇町2丁目9番地6
関東支店 埼玉県朝霞市本町1丁目34番5号

【活動】

建築工事の設計・施工

【環境管理責任者】

金谷勝彦（取締役統括本部長）
中村麻里（管理責任者事務局）

※「環境経営目標」「環境経営計画」「環境活動評価及び見直し」においての

本社及び現場、ANNEX Bldg.は

本社：本社事務所 現場：現場事務所 ANNEX Bldg：別館としています。

東京事業所は、関東支店の慶應現場事務所 です。

2.環境経営方針

基本理念

林建設株式会社は、地域から愛され続ける企業を目指すため、
環境と共存しながら地球環境の保全や地域の環境活動に
積極的に貢献する。

行動方針

- 1.電力および化石燃料使用量の削減による、二酸化炭素排出量の削減
- 2.廃棄物の削減
- 3.水使用量の削減
- 4.環境に配慮した施工方法や製品の採用

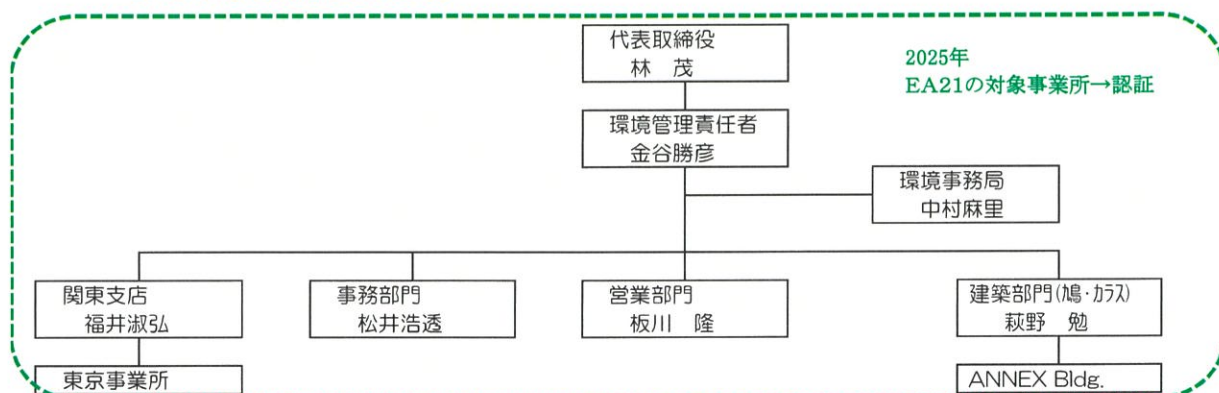
当社は上記方針を全社員に周知し、環境関連法規を遵守し、
地域の環境活動へ積極的に参加し、環境保全に努め、
継続的改善を行うことを誓約します。

制定日：2020年6月1日

代表取締役

林 茂

3.林建設株式会社 環境経営システム組織図及び役割・責任・権限表及び わが社が取り組むSDGs



	役割・責任・権限
【代表者】 代表取締役 林 茂	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムに必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を用意 - 環境管理責任者の任命 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 経営者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認
【環境管理責任者】 取締役統括本部長 金谷 勝彦	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
【環境事務局】 中村 麻里	- 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 - 環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェック 「環境関連法規等取りまとめ表」の作成 「環境関連法規等取りまとめ表」に基づく遵守評価の実施 - 環境経営目標・環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
【各部】 松井 事務部門長 板川 営業部門長 萩野 建築部門長	- 自部門における環境経営システムの実施 - 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
【全従業員】	- 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

わが社が取り組むSDGs 持続可能な開発目標



4-1.環境経営目標と実績-本社

項目 \ 年度			2023年 基準年	2024年 目標	2024年 実績	達成率	達成 状況
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	kWh	25,602	25,346	25,687	99%	△
		kWh/人	1,970	1,950	1,975	99%	
		基準年比		99%			
	自動車燃料の削減 (化石燃料使用量の削減) ※内勤者:距離が毎年同じ →燃費のキープ	ℓ	5,433	5,433	5,908	92%	×
		ℓ/人	420	420	452	93%	
基準年比			100%				
上記二酸化炭素排出量合計 kg-co2			—	—	26,139	—	—
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	kg	207	205	136	151%	○
		kg/人	32.61	32.00	12.00	267%	
		基準年比		99%			
水使用量の削減	上水道使用量の削減	m³	147	145	124	117%	○
		m³/人	11.31	12.00	9.54	126%	
		基準年比		98%			

※電気-二酸化炭素排出係数0.484を使用（北陸電力2021年二酸化炭素排出係数参照）

※化学物質は使用しない

4-2.環境経営目標と実績-現場

項目			年度	2023年 基準年	2024年 目標	2024年 実績	達成率	達成 状況
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kWh	32,849	32,521	47,056	69%	× ↓ ○ (kwh/ヶ所で達成)	
		kWh/ヶ所	16,661	16,494	15,617	106%		
		基準年比		99%				
	自動車燃料の削減 (化石燃料使用量の削減)	ℓ	34,514	34,169	30,524	112%	○	
		ℓ/人	1,726	1,709	1,599	107%		
	※技術者と営業(社用車含む)	基準年比		99%				
化石燃料使用量の削減 (冬期の灯油)	ℓ	1,837	1,819	1,697	107%	○		
	ℓ/ヶ所	513	508	717	71%			
	基準年比		99%					
上記二酸化炭素排出量(+軽油)合計 kg-co2			—	—	96,408	—	—	
廃棄物の削減	リサイクル可能廃棄物の分別排出	リサイクル率	98.0	98.0	97.3	99%	△	
		※リサイクル率のキープ	基準年比		100.0%			
	産業廃棄物の削減(全体)	t	3,323.759	3,257.284	2,126.931	153%	○	
		t/ヶ所	667.000	653.660	346.644	189%		
	基準年比		98%					
水使用量の削減	水使用量の削減	m³	665	652	247	264%	○	
		m³/ヶ所	665.00	652.00	124.25	525%		
		基準年比		98%				
環境に配慮した 施工方法	環境配慮の促進 (施工方法-NETIS(新技術情報提供システム)の活用による評価点アップ)	NETIS活用件数	0	1	8	800%	○	
		基準年比		—				
	環境問題への取組み (騒音・振動)	測定実施率	0.0	100.0	100	100%	○	
		基準年比		—				

※電気-二酸化炭素排出係数0.484を使用(北陸電力2021年二酸化炭素排出係数参照)

※化学物質は使用しない

4-3.環境経営目標と実績-ANNEX Bldg.

項目 \ 年度			2023年 基準年	2024年 目標	2024年 実績	達成率	達成 状況
二酸化炭素 排出量の 削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	kWh	912	903	3,330	27%	×
		kWh/人	457	452	1,669	27%	
		基準年比		99%			
上記二酸化炭素排出量合計 kg-co2			—	—	1,612	—	—
水 使用量の 削減	上水道使用量の削減	m ³	0	23	11	209%	○
		m ³ /人	11.5	11.0	5.5	200%	
		基準年比		98%			

※電気-二酸化炭素排出係数0.484を使用（北陸電力2021年二酸化炭素排出係数参照）

※化学物質は使用しない

5-1.環境経営目標-本社

項目 \ 年度			2024年 基準年	2025年 目標	2026年 目標	2027年 目標
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	kWh	25,346	25,093	24,839	24,586
		基準年比		99%	98%	97%
	自動車燃料の削減 (化石燃料使用量の削減) ※内勤者:距離が毎年同じ→燃費のキ-7	ℓ	5,908	5,908	5,908	5,908
		基準年比		100%	100%	100%
上記二酸化炭素排出量合計 kg-co2			26,279	—	—	—
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	kg	205	203	201	199
		基準年比		99%	98%	97%
水使用量の削減	上水道使用量の削減	m³	145	143	138	131
		基準年比		98%	95%	90%

※電気-二酸化炭素排出係数0.496を使用（北陸電力2024年二酸化炭素排出係数参照）

※化学物質は使用しない

5-2.環境経営目標-現場

項目 \ 年度			2024年 基準年	2025年 目標	2026年 目標	2027年 目標
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減	kWh	32,849	32,521	32,192	31,864
		基準年比		99%	98%	97%
	自動車燃料の削減 (化石燃料使用量の削減) ※技術者と営業(社用車含む)	ℓ	34,169	33,827	33,486	33,144
		基準年比		99%	98%	97%
	化石燃料使用量の削減 (冬期の灯油)	ℓ	1,819	1,801	1,783	1,764
		基準年比		99%	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計 kg-co2			100,095	—	—	—
廃棄物の削減	リサイクル可能廃棄物の分別排出	リサイクル率	98.0	98.0	98.0	98.0
		※リサイクル率のキープ	基準年比		100.0%	100.0%
	産業廃棄物の削減(全体)	t	3,257.284	3,192.138	3,094.420	2,931.556
		基準年比		98%	95%	90%
水使用量の削減	水使用量の削減	m³	652	639	619	587
		基準年比		98%	95%	90%
環境に配慮した施工方法	環境配慮の促進 (施工方法-NETIS(新技術情報提供システム)の活用による評価点アップ)	NETIS活用件数	1	1	1	2
		基準年比		110%	130%	150%
	環境問題への取組み (騒音・振動)	測定実施率	100.0	100.0	100.0	100.0
		基準年比		100%	100%	100%

※電気-二酸化炭素排出係数0.496を使用(北陸電力2024年二酸化炭素排出係数参照)

※化学物質は使用しない

5-3.環境経営目標-ANNEX Bldg.

項目 \ 年度			2024月 基準年	2025年 目標	2026年 目標	2027年 目標
二酸化炭素 排出量の 削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	kWh	3,330	3,297	3,263	3,230
		基準年比		99%	98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計 kg-co2			1,652	—	—	—
水 使用量の 削減	上水道使用量の削減	m³	23	23	22	21
		基準年比		98%	95%	90%

※電気-二酸化炭素排出係数0.496を使用（北陸電力2024年二酸化炭素排出係数参照）

※化学物質は使用しない

6-1.環境経営計画・環境活動評価及び見直し-本社

項目		取組	評価	次回取組
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	照明器具の省エネ型使用 冷房(26℃)・暖房(22℃)温度の徹底管理 エアコンの省エネ型への更新 昼休みの消灯 不要電源のOFF 待機電力の削減	人手不足のため管理者の土日出勤が増えたため。 会議室の照明をスイッチ変更して効果があった。 活動維持。	人手不足の解消。 事務所内もラインごとに点灯管理。 会議室、応接室の使用後、電灯の消し忘れ無しを徹底する。 継続的に改善。
	自動車燃料の削減 (化石燃料使用量の削減) ※内勤者:距離が毎年同じ→燃費のキープ	アイドリングストップの徹底 エコドライブの推進(急発進・急加速・急ブレーキの抑制) 空気圧の適正化	人手不足のため管理者が現場を担当したため。	人手不足の解消。 スケジュールを調整し、直行直帰の機会を増やす(直行直帰を推進)。 目標値変更。
廃棄物の削減	一般廃棄物の削減	事務所ゴミの分別徹底 使用済み用紙の裏利用の徹底 両面コピーの推進 出来るだけモノクロ印刷を使用する 古新聞、古雑誌の回収(リサイクルの促進) 社内、外の連絡には電子メールを使用	成果あり。 活動維持。	ペーパーレス、モノクロ印刷を推進する。 記録を残す際はペーパーでなく、共有のフォルダに残すこと。 継続的に改善。
水使用量の削減	上水道使用量の削減	漏水がないか定期的に点検 節水運動の促進	成果あり。 活動維持。	継続的に改善。

6-2.環境経営計画・環境活動評価及び見直し-現場

項目	取組	評価	次回取組
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 冷房(26℃)・暖房(22℃)温度の徹底管理 昼休みの消灯 不要電源のOFF 待機電力の削減	活動維持(現場ごとで)。	現場休憩所の室温管理が今後の課題である(熱中症対策)。 仮設照明もLEDを使用。 夏期間猛暑だったが、目標を達成した事は高評価とし、次年度も目標達成。 継続的に改善。
	自動車燃料の削減(化石燃料使用量の削減) ※技術者と営業(社用車含む) アイドリングストップの徹底 エコドライブの推進(急発進・急加速・急ブレーキの抑制) 不要荷物の積み込み禁止 空気圧の適正化 作業休止時のエンジン停止(重機・ダンプ等) 12月より1500ccクラス、2000cc以上クラスの車で燃費比較実施	通勤距離にもよるが活動維持。	ウェアラブルカメラを使用して本社担当部署と打合せする(DX化)。 エコドライブを心掛ける。 継続的に改善。
	化石燃料使用量の削減(冬の灯油)	活動維持。	暖房用燃料となる化石燃料の使用量を減らせる機器を使用する(リ-ス社へ要望)。 継続的に改善。
廃棄物の削減	リサイクル可能廃棄物の分別排出 ※リサイクル率のキープ	成果あり。 活動維持。 石綿含有項目→埋立。	ウェアラブルカメラを使用して本社担当者に状況画像を送る(検証)。 土砂に関しては、「盛土規制法」を周知。 継続的に改善。
	産業廃棄物の削減(全体)	特官-廃石綿等：5月富山大学(五福)→埋立。 特官-廃石綿等：2月熊野小学校→埋立。 解体を含む改修工事が多い。	作業所内での分別を心掛ける。 「産業廃棄物処理法-特別管理産業廃棄物(特に解体工事における廃石綿等)」を周知。 継続的に改善。
水の削減	水使用量の削減	成果あり。 活動維持。	継続的に改善。
環境に配慮した施工方法	環境配慮の促進(施工方法-NETIS(新技術情報提供システム)の活用による評価点アップ)	成果あり。	グリーンファイル、ウェアラブルカメラを活用させる。 NETISの取組みを推進する。 電子小黑板の利用率アップ。 講習会を開き、機器の使用方法を教育。 DX化の取組みに努力する。 継続的に改善
	環境問題への取組み(騒音・振動) 騒音測定 85db以下 振動測定 75db以下 作業可能な時間帯・1日における延べ作業時間・同一場所における作業日数の遵守 日曜日・休日における作業を行わない	成果あり。	継続的に改善。

6-3.環境経営計画・環境活動評価及び見直し-ANNEX Bldg.

項目		取組	評価	次回取組
二酸化炭素排出量の削減	電気使用量の削減 (冬期の融雪含む)	照明器具の省エネ型使用 冷房(26℃)・暖房(22℃)温度の徹底管理 エアコンの省エネ型への更新 昼休みの消灯 不要電源のOFF 待機電力の削減	待機場所となる事もあり、目標値の設定が難しい。	掲げている目標達成手段の各取組みを精査し、改善できる事は行う。 目標値変更。
	水使用量の削減	漏水がないか定期的に点検 節水運動の促進	待機場所となる事もあり、目標値の設定が難しい。	掲げている目標達成手段の各取組みを精査し、改善できる事は行う。 継続的に改善。

6-4.環境配慮の促進として取組んだNETIS(新技術情報提供システム)

項目		取組	評価	評価後の取組
NETIS(新技術情報提供システム)	二酸化炭素排出量の削減 (電気使用量の削減)	①太陽光発電(ソーラーシステム)入 事業所名：富山県総合体育センター 実施日：令和6年11月～	①電気使用量削減 ②二酸化炭素排出量の削減 ③公共工事の評点アップ	NETISの取組みを推進する。

CO2を出さない環境にやさしいシンプルなハウス

ソーラーシステムハウス



ソーラーシステムハウス

NETIS

国士庁認定 省エネルギーシステム
認定番号 No. C-170021064

3days

3日で完成し、
即日使用可能

CO2

年間CO2削減
量約2.5トン/年
削減可能

metal

高強度鋼板
使用のため、
災害時に安心

WAVE

断熱性能の高い
WAVE断熱材を
採用して省エネ

size

1.5坪サイズ
からスタート

COST

固定費、ランニング
コストが抑えられ
投資回収が早い

エアコン専用で設置後すぐに利用可能

以上の条件をクリアした PCO は発生せず、取壊し作業は 100% 完了したと見えます。取壊し作業は、取壊し工程を経て、コンクリートが破砕されることとなります。取壊し作業は、本工事に伴う地盤掘削と異なり、得られる土は基本 4 年以内の保水イベント、かつのばり貯蔵率 10% 以上かつ、取壊し、分解、貯蔵等の経路で発生する有害物質と人々の健康被害の懸念が低減されるものと見られるため、取壊し工程は、コンクリートの破砕工程と異なり、有害物質の発生が抑制されています。同時に、取壊し工程によるコンクリートの破砕は、コンクリートの破砕工程と異なり、有害物質の発生が抑制されています。同時に、取壊し工程によるコンクリートの破砕は、コンクリートの破砕工程と異なり、有害物質の発生が抑制されています。



国士で酒客の新技術情報システムに登録しています。

[illegible]

当社はクリーンな自然エネルギーを用いた製法を従来よりとめてSDG「エネルギーの持続可能な発展」を、人々を喜ばせよう。

D+Daiwatech
<http://www.daiwatech.co.jp>

電気工事不要で設置後すぐに使用可能。

安全・迅速のシンプルハウス





表示灯（点滅確認）

各センサーの動作確認は、点滅確認ボタン（LED）を押せば確認できます。点滅確認ボタンを押すと、点滅確認音が鳴り、点滅確認ランプが点滅します。

点滅確認ランプは、点滅確認ボタンを押すと点滅します。



簡易型 EOX

簡易型の簡易型に設置されている簡易型、点滅確認ランプで確認できます。



LEDサイン（点滅）

簡易型に設置されている簡易型に設置されている簡易型、点滅確認ランプで確認できます。点滅確認ランプは、点滅確認ボタンを押すと点滅します。



インターネット接続

インターネット接続で確認できます。



インターネット接続

インターネット接続で確認できます。

[illegible]

7.環境関連法規

①主な環境関連法規等の遵守状況

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

環境関連項目		環境法規制等の名称/略称	遵守状況
環境問題への取組	適正な廃棄物処理	廃棄物処理法	○
		廃PCB特別措置法	○
		労働安全衛生法	○
	リサイクルの推進	リサイクル法	○
		再生資源利用省令	○
		指定副産物利用促進省令	○
		建設リサイクル法	○
		容器包装リサイクル法	○
		家電リサイクル法	○
	大気汚染防止	大気汚染防止法	○
		建設業に係る特定地域における自動車排出窒素酸化物の排出の抑制を図るための指針	○
		オフロード法	○
	オゾン層の保護	オゾン層保護法	○
		フロン排出抑制法	○
	建築物の建設	建築基準法	○
	騒音規制	騒音規制法	○
	振動規制	振動規制法	○
	悪臭防止	悪臭防止法	○
	水質汚濁防止	下水道法	○
	土壌汚染防止	土壌汚染対策法	○
	少量危険物、指定可燃物の取扱い	消防法	○
	特定小電力無線機の使用	電波法	○
	環境影響評価	環境影響評価法	○
	高圧ガスボンベ使用	高圧ガス保安法	○
	地球温暖化・省エネルギー	省エネ法	○
		建築物省エネ法	○
		都市低炭素化法（エコまち法）	○

②違反、訴訟等の有無

対象期間において、関係機関からの指摘、利害関係者からの起訴もありませんでした。

8.代表者による全体の評価と見直し・指示

中同協環境経営委員会主催の「実践企業見学会」に参加しました。

企業におけるエネルギーシフトや環境経営の取組みを、積極的に行っている企業から学ぶ機会を得て、今後、脱炭素の為にも、「再生可能エネルギー」を普及させなくてはならないと確信しました。

未達だった項目は至った経緯を精査し、弊社に合った取組みに変更して環境経営目標が達成できるように、今後も引き続き努力したいと思います。

【見直しの必要性】				【その他】	
環境方針	なし	法規制	あり	苦情	なし
環境目標	あり	教育等	なし	不適合	なし
	未達:見直し			是正処置	あり(3件)
環境活動計画	あり			リスク管理 (予防処置)	なし
実施体制	なし				
【教育訓練】					
実施：5件					
【内部監査】					
実施：8件					
(営業部署,総務部署,関東支店,富山大学五福,建築部署+設計,					
ISO推進部署+管責,富山港湾(OC),県警本部非常用発電機室)					

作成日 2025年4月21日

代表取締役
林 茂

